

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年4月7日

【評価実施概要】

事業所番号	4271401772
法人名	(有)グループホーム梅の木
事業所名	グループホーム 梅の木
所在地	〒859-1502 長崎県南島原市深江町乙1452 (電話)0957-72-5198

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島2丁目7217島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成20年3月29日	評価確定日	平成20年4月21日

【情報提供票より】(H20年3月7日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	16年	3月	1日
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人	
職員数	13人	常勤	11人	非常勤 2人、常勤換算 8.2人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1階建ての	階 ~	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	3,990円	その他の経費(月額)	3,000円・実費
敷金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,000円	

(4) 利用者の概要(3月7日現在)

利用者人数	18名	男性	6名	女性	12名
要介護1	0名	要介護2	4名		
要介護3	5名	要介護4	6名		
要介護5	3名	要支援2	0名		
年齢	平均 84.3歳	最低	76歳	最高	98歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	泉川病院・上田歯科
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームの裏山からは野鳥の音が聞こえ、庭には柚子や橙の木や季節の花々が咲き、自然に溢れた環境に別棟で2ユニットを建設し、一般家庭を思わせる雰囲気である。施設長は長年の福祉の経験と「お年寄りが大好き」の思いから現場のケアを大切に陣頭指揮に立ち、体を惜しまず日々のケアに取り組んでいる。「どんな方でも家族の希望があれば受け入れたい」の気持ちで、重度の方が多いが、入居者は明るく充実した生活を送られている。4月には深江町伝承館で開催される“花やから”に入居者・家族・職員の総勢50人が見物予定であり、止まることなく前向きに取り組む今後益々期待できるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	評価を運営上の向上の一環として理解し、前回の改善点はできる事(記録の書式変更・身体拘束の同意書受理・ホーム便りの作成・ボランティア登録等)から見直し改善を行っている。今後改善をスムーズにする、実施内容・期間や達成状況を設定する改善計画シートを作成し、計画的に向上に向けての取り組みが期待される。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価表を全職員に配布し記述後話し合い、集約して実施状況を詳細に記述しており、評価の一連の過程を通じて質の確保に取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は広域職員・老人クラブ代表・家族代表・施設長・介護職員・職員代表を構成メンバーとして、2ヶ月毎に開催しており、その都度市町村の担当者に質問(後日返事がある)・家族の感謝の声・ホームを理解してもらう等、成果が上がっている。1月にはマスクの設置の意見があり、早急に取り組み、サービスの向上に活かしている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	玄関に苦情処理箱を設置し、毎月利用料の支払いで訪問する家族に声掛けをし、傾聴の体制を前面に出している。家族は意見や要望を言うことは殆どないが、今までにかかりつけ医に関する相談等があり早急に対応し、コミュニケーションを大切に声掛けによる努力がうかがえる。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	施設長が地域に居住して町内会に加入している事から、町内の情報は収集できており、ホームで開催する敬老会には地域の人が踊りで参加している。又、散歩・野菜を頂く・鬼火等で地域との馴染みの関係を築いている。

2. 評価結果 (詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の行事に参加しながら「自由でおしつけない」支援を目指して理念を作り上げ、入居者を尊重し、その人に合った生活の維持を支え続けるように実践している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員と一緒に考えて理念を作り共有している。常に笑顔で入居者一人ひとりを理解し、優しい言葉かけに注意を払い、真心のあるケアを一丸と成って、実現に向け取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	施設長が地域に居住しており、町内の情報は収集できている。ホームで開催する敬老会には地域の人が踊りで参加している。又、散歩・野菜を頂く・鬼火等で地域との顔馴染みの関係を築いている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価をホームの向上の一環と理解しており、職員全員に自己評価表を配布し、記入後に集約し実施事項を詳細に記述している。前回の評価はできる事から改善をしているが、改善計画シートの作成がなく、計画的な取り組みとはいえない。		評価を真摯に受け止め、改善項目は前向きに取り組み、改善点はできる事から取り組んでいるが、実施内容・期間や達成状況を設定する改善計画シートを作成し、計画的に実施される事が期待される。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月毎に開催しており、その都度市町村の担当者に質問(後日返事がある)・家族の感謝の声・ホームを理解してもらう等、成果が上がっている。1月にはマスクの設置の意見があり、早急に取り組み、サービスの向上に活かしている。		

グループホーム 梅の木

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村の担当者がホームを訪れる事や、入居者に関するお願いを受けることがあり、顔馴染みの関係が確立しており、相互の相談ができています。又、市町村主催の勉強会に参加する事がある。		
4.理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族は利用料持参や約2ヶ月毎にある行事に参加しており、ホームを訪れる事が多い。又、毎月の請求書と一緒に個別に梅の木便りや写真を同封し、その人に合った報告を行っている。現在は金銭管理は実施していない。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に苦情処理箱を設置し、毎月利用料の支払いで訪問する家族に声掛けをし、傾聴の体制を前面に出している。家族は意見や要望を言うことは殆どないが、かかりつけ医に関する相談等はしており、声掛けによる努力がうかがえる。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員採用に際し、3ヶ月の試用期間を設けている。現在は職員が安定しており、ユニット間での異動は殆どなく、入居者が馴染み安定するまで出来るだけ同じ職員によるケアをし、ダメージを最小限にするように努めている。		
5.人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は出来るだけ参加し、参加者が研修報告書を感想を含めて記入し、共有を図る努力をしている。現在は職員の全体会議の開催はなく、手透きの職員による話し合いや申し送りノートによりケアの統一に向けている。		全体ミーティングにより、多くの意見や学習する場として活用し、職員の学習意欲の向上と同時にスキルアップに繋げる様々な情報の共有(例・研修委員を決め担当者を中心とする定期的な学習の場)が期待される。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のケア研究会に加入し、参加をしながら他ホームと顔馴染みである。又、同業者が見学に来られる事はあるが、訪問する事は殆どない。近くのホームへ入居している家族が、ホームを訪れる事があり、情報交換を実施している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居希望者には体験入居が可能な事を伝えているが、実際に入居される方はいない。入院先や自宅を訪問し説明や相談を受け、ホームの見学等により納得をしての入居に至っている。入居後は先輩入居者との相性に配慮した支援を実施している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>入居者間で互いを励ましあいながら生活しており、職員は見守りながら対応を学んでいる。支援する側、される側に捉われない関係を確立し、互いを思いやりながら楽しい生活を保持している。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居時に生活歴表への記入を家族にお願いしたり、看護サマリーにより情報の収集を行っている。又、気付きを職員間で口頭で伝えたり状況を判断して、思いに沿った配慮ある支援に心掛けている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>書式の中への記入には不足の部分はあるが、職員と相談や入居者と面談しながら介護支援専門員により、本人や家族の意向に沿って、サービス内容を詳細に決めた、実践可能な介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>見直しは短期を3ヶ月、長期を6ヶ月に設定し、日々の記録に計画を書き込み、常に念頭に置いて記述やモニタリングにより評価を行い、変化を察知しながら現状に即した計画の変更を実施している。</p>		

グループホーム 梅の木

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホームの方針として、入居者や家族の負担を軽減する事に努めている。通院介助・家族の希望による終末期の看取り・家族の宿泊・鼻腔食の介助・入院者の支援(毎日の洗濯物・見舞い)等状況に沿って柔軟な支援を実施している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者のかかりつけ医を大切に、医療機関とは報・連・相の関係を重視し、必要時には訪問看護を利用しながら、安心して過ごせるよう適切な医療を支援している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在までに5～6名の看取りを実施している。基本的に家族の意向を最優先にして、医療機関と相談しながら訪問看護を利用し、准看護師の施設長が全面的に看護面を受け持ち支援を行っている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	常に声掛けには注意を払い、特に失禁時には他の入居者を意識した声掛けを行い、見えない場所で支援している。又、記録は入居者と離れた場所での記述や、重要文書は事務所で保管している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の「好きなようにして頂く」がホームの方針で、本人の望む過ごし方の支援を実施しており、ソファで寝る人・テレビを見る人・食卓に座る人等それぞれ自由な生活を穏やかに過ごしている。		

グループホーム 梅の木

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者は下ごしらえ・下膳・テーブル拭き等のできる事を職員と一緒にしている。職員は介助を行いながら手透きの人から食事に着き、同じメニューを食べており、会話の多い楽しい食事風景である。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には週2回を入浴日にしており、状態変化や冬場は週1回や足浴にする時がある。拒否者は家族へ相談しながら、入浴支援を実施している。又、入浴前に家族の了解を得て、施設長が頭髪のカットをしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	できる事はしてもらおう方針で、草取り(草取り鎌・手袋の準備)・清拭用のホットタオルを巻く・洗濯物たたみ・掃除(柱の横に箒・モップ等の掃除セットを準備)・新聞等その人に合った必要な品を見える場所に置き、活力に繋がる配慮に心掛けている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	2ユニットが離れて建設され、広い庭の散歩や近くの運動公園に行く事がある。又、花見・産業祭への参加・花火大会等可能な限り外出の支援をしている。4月5日には深江町伝承館で開催される「花やから」に入居者とその家族と職員(総勢50名位)が見物予定である。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけない暮らしの大切さについて認識しており、センサーによるチェックと職員の見守りにより、日中の施錠は行っていない。住宅地の突き当たり位置し、地域の人には敬老会等で顔馴染みであり、徘徊時のお願いをしている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消火・避難訓練を実施している。自動通報装置を設置し、地域の住人には連絡体制に加わり応援の一端を担って頂いている。又、地震等の天災やそれに伴う備蓄の取り組みは実施していない。		何時如何なるときに発生するか分からない、地震等の天災に関する避難状況の把握やそれに伴う備蓄(2~3日の食料・水・携帯コンロ等)に関して今一度検討し、万が一に備える事が期待される。

グループホーム 梅の木

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は家庭的な手作りに拘り、病状により医師の指示を受け調整し、嚥下や咀嚼に配慮して、ミキサー・刻み・鼻腔食等を提供している。水分量は決めていないが、不足にならないように支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームの周辺は自然に囲まれ、犬や鳥の声がしており、閑静で季節の移り変わりを感じる事が出来、居心地が良い。共用空間の廊下やリビングは広くそれぞれの居場所があり、肩寄せあい楽しい生活感が感じられる。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	布団は毎日天日干しを行い、換気に気遣い掃除が行き届いている。見学させていただいた殆どの居室が、ベットのみが多く、テレビや少々の小物を持ち込まれているが閑散としている。		嫌な臭いはなく掃除がされているが、居室は少々寂しい雰囲気がある。入居者の状態による居室環境への配慮は理解できるが、転倒の危険性を加味しながら家族と相談し、個性ある居室作りが期待される。